

令和6年度 大阪府立牧野高等学校 第2回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年12月9日(月) 15:00~16:00

場所 大阪府立牧野高等学校 校長室

出席者(敬称略)

協議会委員 松宮 新吾(会長)、有堀 正彦(副会長)、尾崎 由美、辻本 智子
【欠席】 薙井 順子、森 隆裕

学校長 高松 智

事務局 川村 大作、大道 香央利、中務 正和、清原 一輝

1. 開会

① 会長挨拶

皆さんこんにちは、どうぞよろしくお願いいたします。

最近の話で言いますと、新しい教育課程に対応した大学入学共通テストが施行されるということで、科目数でいうと7教科21科目ということになります。特に牧野がめざしている国公立大学で言いますと、一般的には6教科8科目で受験される方が多いと思います。それだけ非常に幅の広いリベラルアーツ科目の学習の力が求められているということで、それに対応した牧野高校独自の学びを増やしていくということもできます。

一方、私学では、早いタイミングでの公募制入試で11月・12月に合格者を決定しているといったような動きも出ています。また、今後大学の授業料無償化など、いろいろな動きが出てくるようなこともあり、ちょうど大学教育の転換期に来ているのかなというふうにも思っています。受験の方法も紙ベースで受験会場に集まってというものから、タブレットまたはインターネット上での受験ということも言われており、大阪府の高校入試の出願方法などもこうした流れの中で、変わってきています。教育のDX化と子どもたちの本当の意味での能力というものがこれから試されてきます。各高校におかれましても、カリキュラムの編成や評価方法などにおいて、ちょうどワンサイクルが終わるところですので、今後有益な結果が出るものと期待しているところです。

特に今回は第2回ということで進捗状況を学校からご説明いただき、各委員の皆様から有益なご意見を賜ればというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

② 校長挨拶

本日はお忙しいところ本学校運営協議会にご出席賜りましてありがとうございます。今年度は感染症対策も今は昔になり、完全にコロナ前と同じ教育活動ができるようになりました。

9月の文化祭では入場制限をせず、900名を超える保護者や卒業生、地域の方に来ていただき、大変賑わいました。10月の修学旅行も2日目以外は天気に恵まれて、終えることができました。

また、中学生向けの学校説明会も11月に2回実施して、昨年と同じく司会、プレゼンテーション、校内見学の案内など、全て生徒が行うという方法で実施しました。いずれも300組近い方から申し込みをいただき、参加いただいた中学生やその保護者の方からは非常に高い評価をいただきました。今月も21日土曜日に学校説明会を予定しており、現在申し込みを受付しているところです。

本日の協議会では、先ほど会長先生からお話がありましたように、今年度の学校経営計画の進捗、授業アンケートの結果、本校教職員の時間外勤務についてお話をさせていただきます。皆様からアドバイスをいただいて、よりよい学校運営に役立てたいと考えておりますので、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 令和6年度学校経営計画の進捗状況について・・・学校長より説明

- 会長・・・学校経営計画の進捗状況について説明をいただきたい。
- 校長・・・年度途中であり、評価指標となる数値が確定していない項目が多いので、現在までに取り組んだ内容について報告する。学校教育自己診断は12月下旬に実施する予定にしており、第3回学校運営協議会では、報告できる予定である。

3. 第1回授業アンケートについて・・・学校長より説明

- 会長・・・第1回授業アンケートの結果について説明をいただきたい。
- 校長・・・生徒たちが全教科の担当教員について、質問項目それぞれにつき4点を満点として回答したもの。

今年度、第1回は3.43と昨年度第2回の3.51から下がった。昨年度第1回は3.45であったので、高止まりしたのではないかと思っている。各年代の差も教科別の差も昨年度より大きくなっている。

8～9割の先生が電子黒板を使って視覚に訴える授業をされており、授業アンケートは全体的には高評価で安定しているが、中には残念ながら思うような数値が得られていない先生もおられる。そうした先生方に対して、助言を行うなどして全体のボトムアップに努めたいと思っている。

4. 職員超過勤務について・・・学校長より説明

- 会長・・・教員の超過勤務について説明をいただきたい。
- 校長・・・2学期より、教員一人当たりの勤務時間が昨年度より増え、超過時間も増えた。主な要因として考えられるのは、体育祭と文化祭の準備、学校説明会の運営に参加する生徒の指導で放課後や休日での活動が多くなったこと、クラブ活動指導があげられる。働き方改革の取組みとしては、今年度ペーパーレス会議の導入と部活動指導員および運動部や文化部での部活動外部指導者の活用を推進している。ペーパーレス会議の実施については、職員会議を含む諸会議においてはペーパーレス会議に移行し、会議資料の作成や配付、会議時間の削減に大いに繋がった。「部活動指導員」及び「部活動外部指導者」については、「部活動指導員」は、昨年度から継続しているバドミントン部1名だけでなく、新たにソフトテニス部、女子硬式テニス部にも各1名採用して、3名となった。また、「部活動外部指導者」は、昨年度から継続している男子サッカー部2名、女子バスケットボール部2名、茶華道部1名だけでなく、新たに水泳部1名と男子硬式テニス部1名を採用して、7名となった。ちなみに「部活動指導員」は学校の教職員と同様に単独で付添いを

行うことができ、対外試合や公式戦にも引率可能、「部活動外部指導者」は、教職員なしでの付添や引率はできないことになっている。次年度も一定数のクラブ活動で希望があるので採用する予定。

面談の対象となる教員は昨年度と比較すると、11月末現在で、80時間以上、100時間以上とも前年度より増加。

教育の質を維持しながら、引き続き業務の均等化を図り、様々な制度を活用しながら、時間外勤務減少の意識の醸成に努めていきたいと考えている。

5. その他・・・特になし

6. 協議

- 委員・・・今年、国公立大の志望者数が昨年より下回った理由として、外部要因によるところが大きいという説明だったが、今年から入試のルールが変わったということは、目標値の見直しが必要になるかと思う。また、進学先を早く決めたいという説明だったが、自分の行きたい大学よりも、安心して早く自分の進路を決めたいという思いは強いものなのか。
- 校長・・・今の高校生は、その傾向は強いと感じている。本校だけでなく、他校の校長からもこのような話は聞いている。本校では、ある生徒について、本人は国公立大学に行きたいという希望を持っているが、保護者が先に早く決めてほしいという思いが強く、その意向もあって生徒本人が志望校を変えたという話もある。3年の進路担当の教員が国公立大学への進学を一生懸命指導しても、年度途中、1学期ぐらいで志望校を変えてくる生徒が一定数いる傾向がある。今の時代を現わしているようにも思う。
- 会長・・・キャリア教育は、高校だけで成り立つのではなく、小中も含めて行うものだが、生徒自らが自己判断・自己決定して、行動に移すという一番重要なところと、親の思いの影響などの外発的な要因の双方があると思う。高校生がきちんと自分の夢を語って、それを実現するために時間がかかろうが、たくさんの科目を学ばなければいけなくなろうが、しっかり取り組んでいくという姿勢は見られているか。それとも、外発的な要因で早く進路を決めるようになっているのか、実際に進路指導を担当されている先生方のご意見を伺いたいと思う。
- 事務局・・・この大学に行って、こういう研究したいというふうに考えている生徒に関しては、志望校は変わらずに頑張ってくれていると思う。しかし、2年生時点で大学調べをしたり、受験が近づいたりしていくにつれて、早く決めたいと考えるような傾向が大きくなっている。特に周りの生徒の進路が決まっていく中で、自分がまだ決まってないっていうのを嫌う傾向にあると感じている。
- 委員・・・授業アンケートの結果で、令和5年度第2回が高かったのは、去年はコロナがあけ、ディスカッションとかワークショップ等ができるようになり、それが良かったというような説明だったが、今年度第1回は昨年度第2回に比べて下がっている。その中で、教科別平均で見ると、国語の下がり方や、情報が長期に渡って下がり気味になっている。これは教員の個人的要因などの影響か。
- 校長・・・教員の異動はあまりないが、評価する生徒は毎年変わっていくので、生徒が「自分に合わない」と考える教員の評価は下がる傾向にある。情報は、大学入学共通

テストの科目になったので、これまでと異なり、受験科目として座学が多くなり実技の時間が減っている。そのため、生徒が「楽しい」と感じる事が少なくなった結果ではないかと考えている。

- 会長・・・ICT活用についてだが、牧野高校の場合は、教科ごとの活用の比率が高まるというような考えではなく、質的にどういう分野の、例えば、思考力や判断力、表現力など、どこが伸びているのかを検証していかなければいけないと考えている。学校長からも説明があったように、評価指標が高止まりしている状況であると思うので、電子黒板を利用するのが目的ではなく、タブレット端末や電子黒板を利用して、子どもたちのどの能力が高まっているのかということを検証していき、その高まる部分をうまく各教科の特性を生かして重点的に活用していくという方向にシフトした方がいいのかなと思う。

先生方に対しても「活用段階のフェーズはもう終わったよ」というようなメッセージを発信していくようなことを考えられているのか。

- 事務局・・・現時点では、生徒たちのタブレット端末の活用については、総合的な探究の時間での調べ学習や、発表の準備などで使っている。そこから発展させて、何かもう一つ上の活用法を考えることはできていない。生徒の学力定着のため、各生徒の学力に応じて出題傾向を変えることができるような学習アプリの活用などはこの1年ですすんできている。

- 委員・・・今年も文化祭で、私の所属する障がい福祉サービス事業所の利用者さんによるパンの販売を行った。その時に学校を訪れると生徒さんたちが、熱心に活動・準備されていた。そのサポートをする先生方も勤務時間を超過して働いておられると思うので、先生たちの熱意と時間外勤務の兼ね合いに対する対応として、遅番・早番のような対応はしているか。

- 校長・・・そういう対応はしている。例えば、土日に文化祭の準備がしたいというクラスがあれば、その学年の先生が当番を組んで対応している。ただし、平日はどうしても担任が指導することが多いので遅くまで勤務することになる。

本校は、行事や部活動の盛んな学校と地域からも中学生からも評価されているので、行事の時などは時間外勤務が多くなる傾向がある。学校の特色づくりと働き方改革のバランスをとるのが難しいと感じている。

- 委員・・・授業アンケートの時に他の先生の授業を見学に行くという説明があったが、何か研修はしているのか。

- 校長・・・令和元・2年度に府教育センターが行っている授業力向上に向けたパッケージ研修を受講したが、その後は組織だった教員研修は実施していない。ただ、管理職が授業見学後にアドバイスをするなどの対応はしている。

- 委員・・・本校生でスマホを見ながら自転車を運転するといったマナーの良くない生徒はほぼ見ない。生徒のモラルが高いことは非常に素晴らしい。勉強だけではなく非認知能力の高い生徒も多い。その面も育ててほしい。

7. 閉会・・・学校長よりお礼